

## ■ 結婚の中におさめられた性の祝福

性とは、神から与えられている命につながる祝福ですから、神の秩序や法則があります。食事の場合は、たくさんの人々と楽しく交わります。これは聖書にある祝福の原則の一つです。イエス様も十字架にかかれる前、最後の晩餐をされました。ところが、性は複数の人とではなく、神様が定められた一対一の結婚の中にあります。しかし、私たちはその枠を破ってしまいました。秩序を無視してしまったのです。そこに命の軽視の原因があることも覚えてください。中には、皆がそうしているから、自分だけが正しく生きようとする、よそもの扱いされ、天然記念物とか化石とか思われるのを避けるために、皆が行く方向に行ってしまうという人も多数います。私達は聖書の基準を目指していかなければなりません。それ以外に解決はありません。ソドムとゴモラは性的に乱れた町ということで、裁きを受けたと聖書に記載されています。私たちはソドムとゴモラの罪に加えて中絶という殺人の罪があります。

## ■ 性は人格の中心

今の時代は愛し合っていれば良いという理由だけで、セックスが是認されている風潮があります。それではあまりにも動物的過ぎないでしょうか。異性との肉体関係を持ち始めるのは年々低年齢化し、中学生でも持ち始めています。中学生時代から自分を管理し、自分をコントロールするということは、人格形成上にも、社会生活上にも大切な要素です。相手の立場を尊重し、自分の行動に責任を持つことを教えるのが教育だと私は思います。人格形成上にも、と申しましたが、性という字は「心」に「生きる」と書きます。これは、人格の中心です。そして、「性格、性質、人間性」という言葉に使われているように、性は人格の中心に置くべきものなのです。だからこそ心が生きるのです。性は本来、精神的な問題、且つ、人格的なものであるのに、私たちはそれを動物的なものにしてしまっています。「性」は命の「生」につながり、「生」は聖書の「聖」につながっていきます。

## ■ 性の秩序

性には秩序があります。結婚まで急がず、自分を神の前に正しく秩序を保つことです。結婚＝セックスではありません。性は結婚の中にあります。それは純潔教育です。性教育は人格の中で捉えるべきです。人格を無視した性欲のはげ口対策としての避妊教育が強調するのは、性教育ではなく、性器教育です。性器の話ばかり聞いていると、「自分の性器だからどう使おうと勝手じゃないか」となります。性器も神様が与えてくださった大切な性の一部です。決して自分勝手に、本能のままに使うものではありません。管理が必要です。欲望の赴くままではなく、自制する、管理することを学ぶところに人間としての価値があり、生き方があり、ルールがあります。これは、結婚の中で尊ばれるもの、祝福を受けるもの、だから、結婚外であってはならないということです。清く正しく生き、相手愛していれば、そう簡単には性行為をしようと迫らないものだというお話は、40～50年前のお話と言われることがあります。しかし、何年前の話だとしても、聖書の真理は永遠に変わりません。この聖書の言葉を私たちは活かしましょう。私達が生きる上で、すべてのなかに秩序があるということは、魚は水の中、鳥は空。魚が水の中がいやだからと言って、そのルール、秩序を乱して自ら飛び出すと死んでしまいます。車の運転でも、交通ルールという秩序の中でしか運転できません。死につながりますね。聖書は私達を祝福するための神様の秩序、法則を教えています。これ以外にありません。私たちは神様の秩序と法則を知りながら、生き、生かされていく必要があります。現在、性感染症、しかも複合の性感染症にかかっている人が十代で四人に一人の割合です。それはエイズにつながりやすいのです。診察をしている人、していない人全部足しても七人に一人は必ず性感染症にかかっているというデータがあります。ですから、管理すること、神様の秩序を守ることを大切にしなければなりません。

## ■ 神様の赦しをいただく

性は結婚の中で祝福されるように神様が定められました。「生めよふえよ」というのも結婚の中にあり、そこに神様の救いが成就されていくのです。性自体はとても尊く聖いものです。だから、サタンの誘惑に負けてはなりません。これまで負けてしまった人は、イエス様の十字架によって、完全に許されているわけですから、もう一度立ち直ってください。これが私達の信仰です。神様は性を見て、「はなはだ良い」と宣言された後、罪が入りました。そして、アダムとエバが罪を犯した後、彼らが最初に隠したのは陰部です。性には慎みがないといけません。開けっぴろげはよくありません。神様は私達を祝福されたいゆえに、性を大切にするように言われました。今まで、中絶の体験者、フリーセックスをしてきた人も、イエス様の十字架によって完全に赦されます。水子供養とかそういうものではないのです。ですからこれにすぎない以外に、私たちは新しく生きられないと思います。しかし、失敗はしますから、それをイエス様の十字架によって完全に赦していただきます。そして、キリストにあるならば新しく造られたものとなります。「見よ、すべてが新しくなった」と言われるとおりです。これが生きた信仰です。イエス様の十字架の救いは、そういう人たちに命をふきかけています。そのような力ある福音を私たちは持っています。決して中絶しているお医者さんを責めない、中絶した女性を責めない、それをさせた男性も家族も責めない。でも、私たちは「救いがある」と言うことを決してゆずってはなりません。神様はそれを私達に期待しています。そのためにあなたは救われたのです。このような現実を多くの人は知りません。それを知った一人一人が、行って同じようにしてください。イエス様もそのことをしてくださっていますから。

## ■ 世に遣わされた者として

「ミッション」という言葉を、日本語では「宣教」とだけしか訳されませんでしたから、罪を悔い改めなさいということだけに的を絞ったのがミッションだと思っていた時代が長くありました。ですから、私たちは「伝道＝神様、罪、悔い改め、救い」という形を思ってしまうがちです。でも、「ミッション」という言葉は、「世の中に遣わされた者」という意味もあります。私たちはこの世の中に遣わされています。だから、神様の言葉を語ること、そして「あなたも行って同じようにしなさい」と言われたその使命を果たしましょう。神様は宣教を天使にはゆだねてはいません。世の人と同じ世界に生き、罪を犯したけれども赦された人々、すなわちクリスチャンである私達にゆだねられました。そして神様の働きをしていますから、神の器、神の友と言われます。それがクリスチャンです。その時に神様は、ご自身を「アブラハムの神、ヤコブの神、イサクの神」と言われ、続いて私達の名前を入れてくださいます。神様は「〇〇（あなたの名前）の神」と言うことを恥とはなさらないのです。私たちはその中に生かされています。これは厳粛な事実ですから、そのことを受け止めてください。エゼキエル33章に、もし民が神の言葉を知らずに滅んでいく時に、見張人が角笛を吹かなくてその人たちが滅んだなら、その血の責任を角笛を吹かなかった人に問うと言われました。私たちは警告することを神様に期待されているのです。神様は「わたしは誰を遣わそう」と言われました。イザヤはそれに答えました。「私がここにいます。私を遣わしてください。」これが、あなたが導かれる上での神様の厳粛な背後の導きです。主は、「御心が天で行われるように、地にも行われるように」と祈るよう教えてくださいましたね。二千年間、私たちはその祈りを守っていますが、ただその御心をとだけ祈ったのであれば、あなたを通して御心が成就しないのです。たとえつまづきながらも、又、失敗しながらでも、その御心を行う時、それは成就していきます。私達はそういう器です。洗礼を受ける時も、古い自分が死んで、新しい者に生まれ変わりましたと言います。「古い自分が死んで新しい自分」とは、新しい命で生きていくということです。それを実行していく時、神の栄光が表れるのです。■